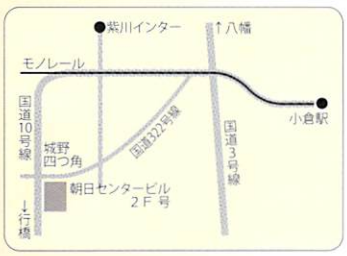
明けましておめでとうございます

昨年秋から引き続き、今年も激動の幕開けとなりました。長年にわたる自民党政権が終わり、民主党政権に交代して期待と不安の入り混じった中でまもなく通常国会が始ります。年金などをめぐる社会保障制度の改革、雇用問題、官僚主導からの脱却、税金の無駄遣いの是正、日米外交の検証など課題は山積です。その中で、昨年末に新政権で実施された「事業仕分け」。思えば、この国の赤字財政の中で○○事業が本当に必要不可欠な事業なのか否かを議論する公開の場はありませんでしたし、その選定過程も、国民には不透明のまま、まさに官の主導でおこなわれてきました。公開の場で事業を仕分ける様子は、連日マスコミをにぎわせ、旧政権下では想像すらできなかったと感動する反面、財務省や防衛省を改革するべき事業仕分けについては、なんとも、おざなりです。また、日米外交、特に沖縄普天間基地問題に関して右往左往としている状況は、新政権の危うさを象徴しています。既にこの基地の移設は10年前に日米で合意に達しているものの、未だ実現していません。その間、2004年には、普天間基地の米軍ヘリが近隣の大学構内に墜落して炎上しました。実は、沖縄ではこのような米軍機の墜落や機体の一部・物資の落下・緊急着陸などの事故が頻繁に起こっていて（03年～07年の５年間で240件余）、過去には多数の県民が巻き添えになっています。このような惨劇を新たに沖縄北部（辺野古の新基地予定地）に拡大することは言語道断ですし、また、沖縄以外の本土に押し付けることも許されません。思えば、戦後65年、外国の軍隊にこれほどまでの大規模な軍事施設を国内に保有させ、かつ、莫大な日本の税金（思いやり予算等）を投入して駐留を許している国は、世界をみても日本以外ほとんど例がありません。今の日米同盟は、莫大な負担を日本に強いていて、対等とは程遠いものです。また、長年のインド洋での兵たん活動（給油活動）から脱却し、アフガニスタンの真の平和復興となる民生支援への転換にも民意は高まっています。戦争に巻き込まれ、何の罪もない愛すべき家族を失っているアフガニスタン国民の惨状を目の当たりにすると、真の世界平和の実現とは、決してノーベル平和賞といった名誉を得ることではなく、生の戦争の痛みを共有できる想像力とそれを回避する賢明な行動力が必要です。世界に誇る平和憲法を有している日本が、政権交代を果たした今、真の世界平和と日本同盟をどのように新構築していくのか、私達国民と世界各国の人々がおおいに注目する新年の幕開けとなりそうです。

■ みなさんといっしょに環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

東風 No.20

発行日　2010年１月１日
発行所　小倉東総合法律事務所
編集者　荒　牧　啓　一
連絡先　〒802-0062 北九州市小倉北区
片野新町2丁目12番21号
朝日センタービル２階
TEL093(932)5575
FAX093(932)5600
e-maii:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



平和と命の尊さを感じて

今、再び、人の命が軽く扱われる時代が来ている気がします。
私たちは、命を軽く扱う悲劇を、あの戦争、あの原子爆弾で思い知らされたはずです。
この世で死んでもいい命なんてないって。
夫婦、親子、恋人、親戚、友達 ――――――
命はつながっています。命を奪われると悲しみもつながります。
そのことを、白い雪の舞う新しい年の初めにもう一度、感じてもらえればと思います。

僕は雲
いつも空からみんなを見てる
落ち込んでいる人を見たら、元気を出せよって、僕は隠れて晴れにしてあげる
お百姓さんの汗を見たら、僕はお日様をちょっと隠して曇りにしてあげる
いたずらっ子が遊んでいるのを見ると、僕もいたずらして天気雨を降らせてあげる

そんな僕が**2度と見たくない光景**がある
ピカドンのときの光景さ
僕がいつも見ていた生きものたちがみな真っ赤に焼かれて呻いていた
怒りで僕はキノコのように膨らんだ
熱いでしょ、痛いでしょ
なんとかしようと雪を降らせてあげた
でもその雪は灰色

今、そんな町に人や緑、虫や鳥の声がよみがえっている
僕は生きとし生けるものを育んで生きていきたい
もう真夏に雪を降らせるようなことはしたくない

「死んだ人は不運、いや、それよりも殺したほうが最低だよ」
「傷つく人がいるのだからやめればいいのに、**みんなひどいよ**」

「戦争は終わったのに、悪夢を見たり、いつ死ぬかこわいという話を聞きました。
私は昔の一部の人たち（**かわいそうなほど愚かな人たち**）に『バカ』と言いたい」

「強い弱いじゃなく、もっと国と国で分かち合う方法はいくらでもあったんじゃないかな」

「戦争はみんなが苦しみ、みんなが悲しむもの」
「平和ということは『**しあわせ**』ということかもしれない。家族がいてしあわせ、みんながいてしあわせ、人がいてしあわせ」

「武器や兵器を見ていると心の中に**戦争がでてきてしまう**」
「戦争の目を心から消さなくてはいけない」

「とても恐いへいき原子爆弾はこのきれいな地球からなくなり、人間のやくに立つものをつくってもらいたいです」

「平和ってどういうときが**平和**なんだろうと思っていたけど、今こういう風にごはんも食べれたりしていることが平和なんだなあと思いました」

――――「平和の旅へ」コンサートを聞いた小学校5年生、6年生の感想文より

真夏の雪は**命の消えた世界**に降る
お日様には薄い紗がかかり
朝からうるさかった蝉の声もしない
真夏の雪は灰色
生きているのか、死んでいるのか、私たちにも、亡くなった彼らにも分からない
灰色はそんな不条理な世界の象徴

「わしの一等おしまいのことばがおまいに聞こえとったんじゃろうか。
『わしの分まで生きてちょんだいよぉー』
そいじゃけえ、おまいはわしによって生かされとる。
あよなむごい別れがまこと何万もあったちゅうことを覚えてもろうために**生かされとる**んじゃ」 ――― 井上ひさし「父と暮せば」より

「今は戦争を体験している人たちが**戦争のこと**を教えてくれてるけど、
知らない人たちには**教えられた私たちがいわなきゃいけない**」
――― 「平和の旅へ」コンサートを聞いた小学校5年生、6年生の感想文より

「誰もあのことを言わない
いまだにわけがわからないのだ
わかっているのは『死ねばいい』と誰かに思われたということ
思われたのに生き延びているということ
そしていちばん怖いのは
あれ以来
本当にそう思われても仕方のない
人間に自分がなってしまったことに
自分で時々気づいてしまうことだ
教えてください
うちは**この世におってもええんじゃ**と」 ――― こうの史代「夕凪の街」より

この世に死んでもいい命なんてない
絶対にないんだよ

Information 新鮮情報

● みな様からの暮らしの智恵やおもしろ情報
お勧めの書籍など、どしどしお寄せ下さい

日本の青空Ⅱ
「いのちの山河」が完成しました

Ⅰでは日本国憲法を取り上げましたが、今回は豪雪・貧困の村で、老人・乳幼児の医療費無料化を敢行し、生命優先の行政、予防医療の先駆的見本となった「沢内村」の物語を取り上げます。

北九州での試写会は1月14日 お問合せ 092-741-7112 九州共同映画社まで

事務所旅行に行きました

久しぶりに事務所旅行に行ってきました。初秋の別府にかわいい盛りの子どもたちも一緒ののんびり旅行。修学旅行以来の地獄めぐりや新装オープンの楽天地、地獄蒸料理に舌鼓を打ち、別府湾を望む露天風呂につかって、のんびり癒されました。